

令和4年度(令和5年度実施) 各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)(案)

分析項目		検証		教育学部・教育学研究科	地域科学部・地域科学研究科	医学系研究科・医学部		工学部・工学研究科	応用生物科学部	社会システム経営学環	自然科学技術研究科	共同獣医学研究科	連合農学研究科	連合創薬医療情報研究科	全学共通教育
番号	内容	番号	内容			医学科・医療者教育学専攻・医科学専攻	看護学科・看護学専攻								
2-3-1	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	検証1	情報を収集し分析した事例はあるか(C, A)？ ○:ある -:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-3-2		検証2	実施計画を立てた事例はあるか(P)？ ○:ある -:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
2-3-3		検証3	改善につながった事例があるか(D)？ ○:ある -:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	検証1	FD等を実施しているか？ ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	FD等の実施が授業内容及び方法の改善につながった事例があるか？ ○:事例がある -:明確な改善事例は把握していない	○	○	○	○	-	○	○	-	○	-	-	○
5-2-2	学生の受入が適切に行われていること	検証1	入学者の基礎学力が昨年度に比較して同等あるいは向上しているか？ 学部の場合、基礎学力には教学IR室が提供する大学入学共通テストの得点率も参考にすること。(本検証は、博士後期課程及び博士課程を除く。) ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○				
		検証2	検証に基づいて入学者選抜の変更を検討(実施も含む)している事例があるか？ ○事例がある -:事例がない	○	-	○	-	○	○	○	○				
5-3-1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	検証1	学部では100%≤実入学者数／入学定員≤110%(105%) となっているか？ ○:なっている ×:なっていない	○	○	×	○	○	○	○					
		検証2	研究科では70%≤実入学者数／入学定員≤130% となっているか？ ○:なっている ×:なっていない	○	○	○	○	○			○	○	×	○	
6-3-2	授業科目の内容及、授与する学位に相応しい水準となっていること	検証1	シラバスを点検したか？ ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
		検証2	シラバスに「到達すべき目標」が箇条書きで記載されている授業科目の割合(記載率)は？ 記載率(100%)＝記載されている科目の総数／授業科目の総数	89.0%	98.1%	100%	97%	98.8%	99.1%	100.0%	94.0%	100%	100%	77.7%	99.8%
		検証3	記載率が低いと判断する場合は、記載率を高める取組を実施し、改善が図られたか？ ○:改善されている △:取り組んでいるが改善にはつながっていない ×:取り組んでいない -:記載率は十分に高いと判断している	○	-	-	○	-	○	-	-	○	-	×	-
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	検証1	シラバスに記載されている「到達すべき目標」に照らして成績評価を行うことを組織的に確認しているか？ ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	成績評価を厳格にする取組を実施しているか？ ○:実施している ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	学部・研究科の標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等を把握し、適正な状況にあることを確認しているか？ ○:適正な状況である ×:適正な状況ではない	○	○	○	○	○	○		○		○	○	
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	本学統一の書式または独自の書式によって就職状況を分析したか？ ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
		検証3	分析によって進路状況等が大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認しているか？ ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	検証1	卒業(修了)時の学生から意見聴取を行っているか？ ○:行っている ×:行っていない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
		検証2	学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取を行い、学修成果があがっていることが確認できたか？ ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	

令和4年度(令和5年度実施) 各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)(案)

<主な取り組み事例>

番号	内容	部局名	取り組み事例
2-3-1 2-3-2 2-3-3	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	教育学部	令和3年度から後期日程を廃止するとともに、個人面接を課す推薦入試(「ぎふ清流入試」)の定員を拡充、令和4年度より前期日程にも面接を導入した。令和4年度1年次の学生アンケートにおいて、推薦入試による入学者がほぼ100%の教員志望率であり、入学者の教員志望率が10%以上向上し、80%を超えた。この結果は肯定的に捉えられるが、卒業時の教員就職率にどの程度影響するかの効果検証は今後行う予定である。
		医学部医学科	上記「検証1」各項目の分析に基づき改善を検討した結果、①及び④では教員、学生双方の視点から現行の医学専門教育に関する課題を明らかにし、②については入学者選抜方法(後期日程の学生募集停止、推薦入試及び前期日程入試の募集定員の拡大)の見直し、③については卒業試験の成績不良者への面接を実施して指導・助言を行い、国家試験の合格率が前年度を上回る結果へとつながった。
		医学部看護学科	令和4年度 日本看護学教育評価機構による看護学の分野別評価を受審した。受審にあたり、R2年度からワーキング・グループを中心に各委員会で評価項目に即して自己点検・評価を実施した。取り組みがなく根拠資料が示せない項目には、各委員会で取り組みを計画・実施した。
		応用生物科学部	取得単位管理アプリを開発し、教学委員および学務係にて運用し、学生の指導を行った。主に全学共通教育科目の「異分野の学び」の履修漏れ対応に役立った。また、学生自身がWEB画面にて履修漏れを確認できるようなインフラ改修が必要であり、大学に要望すべきであるという意見があった。
		連合農学研究科	コロナのため遠隔実施や、宿泊を伴わない講義が中心になったため、学生間、学生教員間のコミュニケーションの機会が減少し、その点が学生の満足度を低下させていた。そのため、総合農学ゼミナールを対面実施に変更し、夕食時にコミュニケーションの機会を設定することとした。
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	地域科学部	国際教養プログラムの留学報告会と兼ねたFDでは、当時留学継続中であった複数の学生がオンラインで参加し発表を行なった。また、留学報告会も兼ねていたため留学を希望する学部生も多数参加した結果、教員、学生を含めた情報共有の機会となった。
		社会システム経営学環	次年度シラバスの点検及びシラバス作成に関するFDにおいて、「到達すべき目標」と成績評価の整合性の必要性を確認して、改善すべきと思われる点が修正された。
5-2-2 5-3-1	学生の受入が適切に行われていること 実入学人数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	医学部医学科	医学部医学科の推薦入試では、志願者の基礎学力を担保するために大学入学共通テストの総得点に基準点を設定し、基準点を満たさない場合は欠格としている。令和4年度入試では大学入学共通テストの難易度が上がったことにより、基準点を満たす受験生が大きく減少し、募集人員を下回る事態となった。医学教育IR室の分析結果を踏まえ、医学科入学試験委員会及び教授会議で協議を重ね、令和5年度入試より大学入学共通テストの基準点を下回った場合も、平均点の規定倍以上の総得点を上回る場合は合格対象とするように選抜基準を改訂した。
		社会システム経営学環	令和8年度以降の入学者選抜に備えた入試改革ワーキンググループを設置することとした。令和7年3月から卒業生が輩出され、教育課程が一巡りするタイミングに備えて、獲得したい学生像を明確化して、入試方法を含めた、より特化した教育の可能性について議論を始めた。
		共同獣医学研究科	令和2年度に「大学院進学促進ワーキンググループ」を結成し、現状の分析及び今後の対応について検討を行ってきた。学部学生の進学を促すための方策として、研究に興味のある学生については低学年から研究室への訪問・見学を促した。共同大学院が設立されて以来、6年制の学部教育課程を修了しただけに大学院に入学するケースは少なかったが、R4年度に2名、R5年度に3名の学生が学部卒業後すぐに大学院に入学したことから、効果的な対策であったと判断できる。
6-3-2	授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	医学部看護学科 医学系研究科看護学専攻	学部、研究科ともにシラバスについて点検項目(授業概要、到達目標、授業時間と準備学習が授業回数回分記載されているか、成績評価方法、到達度評価方法、学生のアクティブラーニングを促す取り組み、授業時間外の学習、到達目標とディプロマ・ポリシーとの対応)をあげ、点検を行った。101科目の点検の結果、外部非常勤講師の3科目については記載が不十分であった。そのため、非常勤講師にシラバスの記載について例と共に依頼した。
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	全学共通教育	成績公開日から一週間を学生による成績異議申し立てを受け付ける期間とし、異議の申し立てがあった際にはどのような理由でその成績になったのか各担当教員へ問い合わせている。また、その回答は基盤教育センター執行部で内容を確認を行っている。また、各分野、科目ごとに“成績の分布”についてグラフ化し、基盤教育センター企画運営会議及び各科目の部会内で確認している。
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	教育学部	卒業時に各講座の卒業論文指導教員、教職実践演習担当教員に対し、ディプロマポリシーと対応開講科目リスト、及び当該学生の各科目成績リストを提示する。その上で、各学生の専門的能力評価を実施し、卒業時のディプロマポリシー各項目が学位取得にふさわしいかの評価を行っている。
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	工学部	卒業生へのアンケート(卒業時に配布)を実施している。学修に対する満足度、就職及び進学に対する満足度は、9割以上である。
		連合創薬医療情報研究科	修了時にアンケート調査を実施し、大学院での教育や自身の研究について満足しているか確認したところ、非常に満足もしくは満足であるという回答を得た。また、修了時のアンケートにおいて、科学的・論理的思考の獲得の質問において高い評価が出ており、成果があがっていると確認できた。